

URL: <http://www.nik.sal.tohoku.ac.jp/~tsigeto/readu/>  
作成: 田中重人 (講師) <[tsigeto@nik.sal.tohoku.ac.jp](mailto:tsigeto@nik.sal.tohoku.ac.jp)>

## 現代日本論演習 I

「現代日本文化に関する論文講読」(2002年度第1学期) 3年生対象  
<木2> 観察室(文学部・法学部合同研究棟本館 2F)

### 授業の目的

- 論文の探しかたを習得する
- 論文の読みかたを習得する
- プレゼンテーションの方法を習得する (Microsoft Powerpoint を使用)
- 現代日本文化についての知識を深める

※「現代」というのは、およそ1970年以降のことと考えてください。

### 授業予定

- イントロダクション (4/11)
- 「雑誌記事索引」による論文検索 (4/18)
- プレゼンテーション資料の作成方法 (4/25)
- 各論文の報告 (5/2~7/18)

### 成績評価について

- 毎回の報告と質問によります。

### 参考書

- 諏訪 邦夫、1995『発表の技法』(ブルーバックス) 講談社。

授業中に使うわけではありませんが、プレゼンテーションをおこなう際の参考になるはずです。  
生協(文系書籍部)に入荷しているので、各自で購入して読んでおいてください。

### その他の参考文献

- 藤沢 晃治、1999『「分かりやすい表現」の技術』(ブルーバックス) 講談社。
- 木下 是雄、1981『理科系の作文技術』(中公新書) 中央公論新社。
- 化学同人、1994『若い研究者のための上手なプレゼンテーションのコツ』化学同人。
- 齊山 弥生 + 沖田 弓子(1996)『研究発表の方法』凡人社。
- Sane (n.d.)「Microsoft(R) Power Point(R)の使い方」(WWW 文書 URL=<http://www.sail.t.u-tokyo.ac.jp/~sane/powerpoint/>)。

## 各論文の報告

ひとつの論文について、つぎの4つの観点から報告してもらいます。

- ロジックの抽出(結論とその根拠)
- 構造の抽出(目次)
- 図表の解説
- 鍵概念の抽出

これらをひとりずつで分担して、計4人でひとつの論文を担当します(受講者数が多い場合は、もうひとつ「批判的コメント」という観点をいれるかもしれません)。  
ひとりの報告は10分で、それに対する質疑の時間を20分とります。

1回の授業でふたりの報告をおこないます。つまり1本の論文を2回にわけて検討することになります。

報告者は、配布資料(ハンドアウト)と提示資料(Power Point ファイル)を用意してください。

- 配布資料は人数分のコピーを用意します(研究室のコピー機を使ってください)
- 10分におさまるように事前に練習をしておいてください。

報告者以外の人、論文を事前に読んで、質問を考えてきてください。報告のあとの質疑のときに手を挙げて質問するのが標準ですが、報告途中で質問してもかまいません

## 各論文の担当

- 竹ノ下 弘久(2001)「滞日中国人の世帯類型と滞日をめぐる将来展望: 家族を伴う滞在は、日本での「定住」を決意させるか?」『季刊家計経済研究』51: 79-88。
- 〔これ以降は受講者が選んだものから5本をピックアップ〕

論文	日付	担当する観点	担当者氏名
論文1	5/2		
	5/2		
	5/9		
	5/9		
論文2	5/16		
	5/16		
	5/23		
	5/23		
論文3	5/30		
	5/30		
	6/6		
	6/6		

論文4	6/13		
	6/13		
	6/20		
	6/20		
論文5	6/27		
	6/27		
	7/4		
	7/4		
論文6	7/11		
	7/11		
	7/18		
	7/18		

2002.4.11

## 現代日本論演習 I 現代日本文化に関する論文講読

東北大学文学部2002年度  
田中 重人 (講師)

1

### 【目的】

- 論文の探しかた
- 論文の読みかた
- プレゼンテーション
- 現代日本文化の知識

2

### 【予定】

- イン트로ダクション (4/11)
- 論文検索 (4/18 ?)
- プレゼンテーションの技法 (4/25 ?)
- 各論文の報告 (5/2~7/18)  
(1本につき4人で2週間)

3

論文は最初の1本だけ用意している :

竹ノ下 弘久 (2001) 「滞日中国人の世帯類型と滞日をめぐる将来展望」 『季刊家計経済研究』 51: 79-88。

以降は受講者が選んだものから  
(計6本の予定)

4

### 【論文の読みかた】

- ロジック(結論-根拠)
- 構造(目次)
- 図表
- 鍵概念(定義・用例、類義語)

5

### 【報告の準備】

提示資料 (パソコン、OHP、スライド)

- 文字は大きく (最低でも 20pt)
- 飾りのない文字 (ゴシックなど)
- 文章をすくなく、図を多く

6

ハンドアウト (配布資料)

- 提示資料よりも詳しい情報を
- 論文としての体裁を整える
- 日付・授業名・報告者名・所属を書く

8

### 【プレゼンテーション】

- ★ 組み立てをよく考えて、練習する
- ★ 報告用原稿をつくるか、  
提示資料のコピーにメモを書いておく
- ★ 時間を厳守すること

9

- ★ 画面の指示のしかた
  - 指示棒
  - Laser Pointer
  - マウスポインタ
  - アニメーションの活用

★ 聴衆の反応を見ながら話すこと

★ 聴く側も報告者の顔を見て  
反応を返す

10

2002.4.11

**現代日本論演習 I (田中重人)**  
**受講登録フォーム**

氏名：

学年：

学生番号：

所属（文学部日本語教育以外の場合）：

興味のあること（非学術的な話題も可）：

- ・視覚的なプレゼンテーションの経験は？ **ある / ない**
- ・学内の研究室の所蔵資料を借りた経験は？ **ある / ない**
- ・学外の所蔵資料の貸借や文献複写の経験は？ **ある / ない**
- ・論文を探すデータベースの使用経験は？ **ある / ない**
- ・論文を読むゼミにでた経験は？ **ある / ない**

URL: <http://www.nik.sal.tohoku.ac.jp/~tsigeto/readu/r020418.html>  
作成: 田中重人 (講師) <[tsigeto@nik.sal.tohoku.ac.jp](mailto:tsigeto@nik.sal.tohoku.ac.jp)>

現代日本論演習 I「現代日本文化に関する論文講読」(2002 年度第 1 学期)

## 第 2 回 論文をさがす (4/18)

### 論文をさがす

#### 国立国会図書館「雑誌記事索引」

- 雑誌数 1 万以上、採録記事 300 万件以上
- 出版からだいたい 2 月以内で収録される

東北大学ではオンラインのサービス (日外アソシエーツ) を試験利用中  
<http://www.library.tohoku.ac.jp/dbsi/zassaku/za.html>

- 東北大学キャンパス内からしか接続できない
- 同時に接続できる人数が制限されている
- 終了時はかならず **LOG OUT** すること
- 1,000 ヒットを超えると一覧表示できない

#### その他のデータベース

- 日本語教育学研究室のもの：  
<http://localnet/> から (研究室内からのみの利用)
- 「生成する目録」記載のもの  
<http://www.ne.jp/asahi/coffee/house/BIBLIO/> (岡本真さんによる文献データベース集)
- その他 (配布資料参照)
- Arts & Humanities Citation Index および Social Sciences Citation Index  
<http://www.library.tohoku.ac.jp/dbsi/wos/wos.html> (Institute for Scientific Information: ISI による)
  - 東北大学キャンパス内からしか接続できない
  - 同時に接続できる人数が制限されている
  - 終了時はかならず **LOG OUT** すること
  - 1996 年以降の英語文献を中心に収録

### 雑誌の所在をさがす

#### 東北大学内の所蔵

雑誌記事索引「東北大学 OPAC 連携機能テスト」版を使った場合は、検索結果から所蔵状況表示にジャンプできる。

そうでない場合は、図書館 T-LINE OPAC (<http://www.library.tohoku.ac.jp/T-LINES/opac/index.html>) で検索する。ISSN などをひかえておいて、「詳細検索」でひくとよい。

#### 他の大学図書館などの所蔵

NACSIS Webcat 検索: <http://webcat.nii.ac.jp/> (by 国立情報学研究所) NACSIS ID を控えておく (AN10091189 のようなやつ)

### 雑誌の入手

- 東北大学図書館本館にある → 借り出し (たいてい 2 号館にある)
- 東北大学内の研究室など → きいてみる (貸してもらえないこともある)
- 他の大学図書館など → 複写または貸借 (レファレンス・デスクで申し込む: 有料)。

### 書誌情報

#### 書誌情報とは

文献を特定するのに必要な情報を「**書誌情報**」(bibliography) という:

- 著者名
- 出版年
- 論文表題
- 雑誌名
- 巻,号: 掲載ページ

※雑誌発行者は通常は不要 (雑誌名だけで特定できる場合)  
→ Webcat でたしかめること。

#### 雑誌論文の書誌情報の書きかた

著者 (出版年)「論文名」『雑誌名』巻: ページ。

のように書く。

具体例:

竹ノ下 弘久 (2001)「滞日中国人の世帯類型と滞日をめぐる将来展望: 家族を伴う滞在は、日本での「定住」を決意させるか?」『季刊家計経済研究』51: 79-88。

★雑誌に関する重要な情報は、たいてい**表紙にある**(まれに表紙裏にあることも)

★複数のページ付けが共存していることがある。その場合、どれを採用するかよく考えること。

### 課題

現代日本文化に関する論文で自分の興味にあうものを **2 本**さがし、書誌情報を書いて提出。

- 来週までに現物を入手してコピーを提出 (メールボックスへ)
- 今日提出したものよりいい論文をみつけたときは、そちらに変更していい
- 表紙など、書誌情報がわかる部分もコピーすること
- 複写等で時間がかかる場合は再来週まででよい
- 複写サービスの費用がかかった場合は領収書をとっておくこと

現代日本論演習 I 「現代日本文化に関する論文講読」(2002 年度第 1 学期)

### 第 3 回 プレゼンテーション資料の作成 (4/25)

---

#### プレゼンテーションに関する一般的な注意事項

- ・ スライド 1 枚ずつをゆっくり説明すること。  
1 枚あたり 1~2 分程度。
  - ・ 文字は大きく (20 ポイント以上)
  - ・ かぎりのない文字 (ゴシック、Arial など)
  - ・ 背景とのコントラスト (暗色の背景に明色の文字)
  - ・ 背景の模様は視認性の点で不利
- 

#### スライドの基本的なつくりかた

1. Power Point を起動→「新しいプレゼンテーション」をえらぶ。
2. 「タイトル」のスライドを選択 (左上端)
3. 「書式」→「デザインテンプレートの適用」

視認性にすぐれているのは "High Voltage" くらいか。  
ただし「書式」→「背景」で「マスタ上のグラフィックスを非表示にする」チェックを入れてつかう。

田中がつかっているデザインテンプレートは  
<http://www.nik.sal.tohoku.ac.jp/~tsigeto/readu/deeppurple.pot>  
または研究室内ネットワーク内の  
¥¥nikserve¥¥public¥¥tanaka¥¥deeppurple.pot にある。

あたらしいスライドを追加するには「挿入」→「新しいスライド」

---

#### プレゼンテーション

「スライドショー」→「実行」で全画面表示になる。

- ・ Enter キーかマウス・クリックでつぎのスライドに移動
  - ・ Esc キーで終了
  - ・ カーソル (矢印) キーで前後に移動できる
- 

#### 印刷物を取りこむ

スキャナが使えるコンピュータは、現在研究室内で 1 台だけ。

1. Photo Editor を起動
2. 「ファイル」→「スキャナソースの選択」で  
スキャナの製品名を確認
3. 読みとる対象をスキャナにセットして  
「ファイル」→「スキャン」
4. 画像が表示されたら、 ボタンを押して、  
必要なところを切り取り
5. Power Point に貼り付け

同様の手順で画像ファイルを切り貼りできる。

---

#### グラフ

「挿入」→「新しいスライド」でグラフ用のスライドをえらぶ。

---